

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301124		
法人名	株式会社アイ・ユーネット		
事業所名	グループホームとまり木守山2F		
所在地	愛知県名古屋守山区翠松園2丁目2101番地		
自己評価作成日	平成22年1月5日	評価結果市町村受理日	平成22年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 S101号室		
訪問調査日	平成22年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・職員と各利用者間の関係作り・転倒リスクがある方の見守り徹底・孤独感がある方など、落ち着く場をつくり、ゆっくり過ごす様に努めている</p> <p>・ご家族様との関係継続に努めている</p> <p>・新しい利用者さんに安心していただく為、和に入って頂ける様に、努めている</p> <p>・精神面が充実できるように努めている</p> <p>・日常あまり意思表示がない方の思いを図る</p> <p>・感情のコントロール、家族関係の継続を図る</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・フロア・職員用トイレに掲示・名札の裏に入れて、スタッフ全員共有し、迷ったら立ち戻る様にしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として入会し、行事・清掃活動・パトロール・花壇作り・ゴミ当番等に積極的に参加し、交流させて頂いている。散歩時や外でのあいさつをしっかりと、地域とのつながりを大切にしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校の社会見学の受入れにより、保護者の方や小学生からの質問にお答えしたり、ボランティアショーの案内を掲示したり、推進会議等での活動報告したり、資料等を配布させて頂き、意見等を反映したりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告・行事を報告させて頂きながら、意見・質問・ご家族の率直な感想等を頂き、話し合い、それらを活かし、サービス向上に繋げる様取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営・法改正についての疑問等のアドバイスを活用させて頂いたり、区役所には毎月の行事報告・予定・推進会議議事録・外部評価の結果等をお渡しして報告をしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はいつでも出入りが出来る様に開放しており、『身体拘束はしない』認識のもと、対応方法等を工夫し検討するよう、話し合いをしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法をミーティングにて勉強し、1人1人心にゆとりを持ち、感情をコントロールし、仲間同士でフォローする事で、防止できることを学び、声かけ等接し方を気をつけながら、ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて権利擁護を勉強し、活用されている方もお見えになったり、新たに必要なお見えになったら、活用して頂ける様に支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読むだけでなく、具体的な説明も加えながら、理解・納得して頂ける様な説明を心がけ、不明な点・疑問な点がないか、確認しながら行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画書では、意見を記入して頂く様にしており、運営推進会議では、意見の活発化を図り、多数のご家族様に参加して頂いております。意見や要望等が出た場合は、反映するよう取り組んでおります。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者さんと常に接している現場の自発性を大切するため、ミーティング等で話し合いをしたり、決めたことを運営に反映することで、意欲の向上・施設の向上に繋げています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況等を把握したり、話す場を設けて、個々の思いや課題・成果などを話す事で、向上心に繋げている。労働条件等の見直しも実施しました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の質の向上を目的として、出勤扱いで各自、経験・能力に応じて外部研修に積極的に参加できるように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、勉強会などに参加し、グループワーク等で他ホームの方と情報交換したり、交流を図ることにより、活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談段階から職員・ご本人さんも交えてお話しを伺いながら、ご本人さんの気持ちを受け止め、希望に近づく様に行動や言動に注意・観察しながら、何を求めているか・不安に思っていることを把握して、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望・利用者さんへの思いを話していただける雰囲気・コミュニケーション作りに努め、ホームの役割・ご家族との関係を理解していただきながら、関係作りに努めております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状況・家族関係等に配慮・検討し他サービスのほうが、ご本人にとって適しているときは、説明し、紹介等もするようにしている。施設に抵抗等がある方は、デイやショートなどで少しずつ慣れて頂く様にしている		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の持っている能力・個性を活かし、共にえあったり、コミュニケーションを持つことで、お互いを知り、喜怒哀楽を共にする事により、えあいながら暮していく様に支援している		
19		○本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって、ご家族との関わりは必要不可欠である為、施設・ご家族様双方で情報交換・共有して支援するよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人から、仲のいい友人をお聞きして、来訪していただいたり、食事会に行ってもらったりして、関係を継続して頂けるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、えあえるような支援に努めている	ケアが間に入り利用者さん同士がお話して頂いたり、一緒に活動していただいたりすることで関係を築いて頂ける様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先に出来るだけ情報提供をして、ご本人さんのダメージを極力少なくしたり、面会に行き、顔を合わせて少しでも安心して頂く様に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、思いや意向のヒントを探れる様に心がけて、会話等困難な方は、表情やご家族様に生活歴、日常生活の中から見つけ出す気づきを活かせるようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・生活歴・利用者様との会話・ご家族様からの情報により把握している。入所後も同様に積み重ねて把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・日誌・個人記録等で変化等を把握して、常に対応等を検討し、連絡ノートで共有するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や御家族様の意見を取り入れながら、カンファレンス等でチームで気づき・意見等を出し合い、モニタリングを繰り返しながら現状に即した支援が出来るように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化等も個人記録に詳細に記入して、申し送り等で対応について話し合い、連絡ノートに記載し情報共有してプランの見直しに活かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのニーズに当施設で実現が可能なことは、積極的に取り組む姿勢で、様々な支援を積み重ねて、満足度の向上に繋がるように、努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの方の協力・消防署さん・民生委員さん・地域の方々・医療関係の方々・飲食屋さん等、さまざまな方たちに支えて頂きながら支援できるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談時に馴染みの医師の確認・提携医療の説明・同意を頂いてまいります。入所してからも、希望に応じて馴染みの医師に受診したりしている。利用者様が、気軽に医師に相談できる環境を整えるよう努めております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約により、週1回の健康チェックを実施して頂きながら、情報共有し、疑問に思うことや相談等密に図れる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常から、入院回避の為、小さな変化も見逃さない様、努めている。入院になった際は、情報提供を積極的に行い、病院・提携医療機関等密に連携を図り、早期退院できるよう努めている。面会に行き、少しでも安心して頂ける様、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況・他利用者様の状況に合わせて、主治医・訪問看護・施設・ご家族で話し合う場を設けて、主治医から医療的な見解をご家族に話して頂き、医療連携で可能な支援をお伝えし、希望をお聞きし、希望に沿うように努めている。段階的に話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどのスタッフが救急救命講習を受けており、ミーティング等でも勉強会をしている。マニュアルも完備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難誘導の方法・各役割の把握し、自力で避難ができない方に搬送練習等を行い、疑問・不安に思うことを消防署に質問したりして、不安解消に努めている。非常食等も準備してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個々の気持ちを思いやり、各利用者様個別ケアの基本とし、大切に思うことで意識の向上を図っており、丁寧な言葉使い、接する態度を意識する様に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を表わしやすい雰囲気や、言葉かけを意識して、個々の状態に合わせて意思決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者様の望んでいるペースに合わせ、思いをくみ取り、1日を個々の暮らし方に沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者様の個性を大切にして、髪型や服装も希望に応じて支援して、美容師さんによるカットもそれぞれの思いを伝えてカットして頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者様の力に合わせて、食事準備に参加して頂き、テーブル吹き・もやしのひげ取り・食器洗い等、お手伝い頂きながら、取り組んでおり、メニューもリクエストにお答えし、皆で作ったり、出前をとったり、屋台レク等したり楽しんで頂けるよう、努めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録して、野菜嫌いな方には、野菜ジュースを摂取して頂いたり、小食の方には、パンやお菓子も摂取して頂いたりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科さんに往診に来て頂き、各利用者さんの口腔指導を頂き、毎食後、各利用者様に合わせた介助をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンを記録・把握していき、必要に応じたケアをしていき、尊厳を大切にできるだけ自立を目指し取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便状況を記録しており、便秘気味の方には、運動・食事の調整・水分摂取・牛乳の飲用と個々に合わせた支援をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	往診以外の日(週6日上限)入浴して頂けるようになっております。その日の体調にも配慮し、声かえや誘導や入浴方法も個々に合わせた支援に努めております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の生活リズムに合わせて休んで頂き、起床・就寝は、個々のパターンに合わせ、環境・自然なリズム・ストレスの状態と総合的に配慮して支援している。昼寝もして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんをファイリングしてすぐに確認出来るようにしている。薬の変更・目的なども連絡ノートに記載して共有している。経過をみて医師に相談しながら調整している。服薬も顔と名前を確認し、声かけしながら実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・趣味・出来ることを把握し、生き生きと過ごして頂けるように役割・お手伝い等、一緒に楽しく参加頂けるようにし、ご家族とお好きなものを食べて頂いたり、皆で出かけたりと気分転換も図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・庭いじり・野菜の収穫・喫茶店・ハガキだしなど、外出して頂いており、時には、人員を増やし、季節感を感じて頂ける所へ、外出して頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方には、持って頂いており、社会性の継続・出来る事の大切さの為、持っておられない方も買い物する時や外食のときなどは、お渡しして払って頂くようにしている。各利用者様が持って頂けるように、屋台レクなども実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほぼ毎日娘さんに、ハガキをだされたり、週1回電話をされご本人の安心につなげている。不穏・不安な時は、電話で話をされ安心して頂けるように努めている。暑中見舞い等の季節行事も大切にして関係を継続できる様に努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者様の感覚や価値観を大切に、季節感を取り入れることで五感に働きかける様にしている。トイレ・洗面所等も看板を掲示して、戸惑わないよう配慮している。光・明るさや温度・湿度・音の大きさなど配慮し、くつろげる空間作りに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった方たちと過ごして頂く為、イスやソファの配置の工夫や利用者様の変化にあわせ配置を工夫している。畳の空間も作り、お好きな場所で過ごして頂けるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品を持ち込んで頂いたり、写真やご本人さんが安心できる物などを持ち込み居心地いい空間作りに努めており、転倒なども配慮して配置等も工夫しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を把握して、混乱を防ぎ安心・安全に自由に行動できるよう、配置・掲示・設置するよう努めている		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームとまり木守山

目標達成計画

作成日: 平成 年 月 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	会議が年6回開催されていない。市担当者・地域包括支援センターの参加が少ない。	年6回開催しながら、市担当者・地域包括支援センターの参加の機会をつくる。	・ご参加頂ける皆様が全員揃うのが困難なので、会議の内容を分類し(レクの参加も含めて)実施していき、不参加の方は、議事録等をお渡しして把握して頂ける様に努めていく。	12ヶ月
2	33(12)	利用者様の状態・症状・病状・その他環境によって、看取りが出来ない場合もある。	ホーム全体で看取りに関しての方針を共有し、支援していく。ご家族・ご利用者の希望にできるだけ沿えるように支援する。	・看取りに関しての方針を見直し、全体で共有して理解する。1人1人が看取りの必要性を話し合う機会を設ける。マニュアルを作成して一人ひとりの不安なことを取り除く。 ・ご家族と早い段階から話し合う機会をつくり、状況を共有していき、意見交換をしていく。	ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月